

第72回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：令和8年9月14日（月） 13：00－15：00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

（1）委員

常田座長、篠原委員、関委員、永田委員、野村委員、山崎委員

（2）事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

龍崎局長、鎌田審議官、三木参事官、樋口参事官

（3）関係省庁等

文部科学省宇宙開発利用課

梅原課長

文部科学省研究開発局戦略官（宇宙利用・国際宇宙探査担当）

遠藤戦略官

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

宇宙科学研究所（ISAS）

藤本所長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

川崎理事補佐

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

宇宙科学研究所（ISAS）科学推進部

青柳部長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

国際宇宙探査センター

山中センター長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

宇宙科学研究所（ISAS）

宇宙飛翔工学研究系 山田教授

4. 議事要旨

議題1 宇宙科学・探査分野における宇宙基本計画実施の現状と課題

宇宙科学・探査分野における宇宙基本計画実施の現状と課題について、資料1-1を用いて内閣府から検討の背景とスケジュールの説明があった。その後、資料1-2から1-8を用いて各委員の意見が述べられた上で、検討の方向性について議論が行われた。

委員からは、以下のような意見があった。

（○：意見等）

（日本の主体性・自立性について）

○世界の動きが激化する中、日本が主導権をもって進める科学ミッションが重要

○月探査については、なぜ日本が月に行くのかという意義を明確化することが必要

○国際宇宙開発の中で、日本独自の付加価値や役割を打ち出していくことが重要

○日本が不可欠なパートナーとして存在感を発揮し、科学外交に役立てるという視点が重要

○科学の価値を学術的成果だけでなく、産業・安全保障・外交等への波及効果も含めて位置付けることが重要

(人材育成について)

- 宇宙科学が持つ高い人材育成機能を、どのように民間企業に広げるべきか考える必要がある
- 安全保障等の需要拡大による、民間事業者の多忙化・人手不足を踏まえ、小型・中型ミッションや宇宙実証の機会を確保し、技術実証と人材育成の好循環を生み出すことが重要

(研究開発について)

- JAXA の強靱化を通じた、民間への実験の機会、施設、ノウハウの共用が重要
- 日本は多くの要素技術を積み上げてきている中、日本全体の目指すべき方向性を踏まえた横断的な戦略が必要
- 国内需要だけでは維持・発展が難しい技術について、どのようにサプライチェーンを確保していくべきか考えることが重要
- 将来の有人輸送や再利用型宇宙輸送につながる重要技術として、大型回収技術をどのように考えるべきか
- 月の科学探査と有人活動を一体的に捉えた、中長期的な戦略を検討すべきではないか

議題 2-1 最近の動向 令和 9 年度概算要求の状況

令和 9 年度概算要求の状況について、資料 2-1 を用いて、文部科学省から報告があった。

(委員から意見なく、報告のみ)

議題 2-2 最近の動向「月面探査における当面の取組みと進め方について」の改定

最近の動向として「月面探査における当面の取組みと進め方について」の改定について、資料 2-2 を用いて、文部科学省から報告があった。

委員からは、以下のような意見があった。

(○：意見等)

- ポスト ISS の議論に当たっては、低軌道活動と月面活動を切り離さず、一体的なビジョンとして捉えることを期待
- 宇宙飛行士の育成や有人宇宙活動と、科学探査活動との連携が重要
- 月・低軌道においては、科学利用、開発利用、商業利用を含めた総合的な視点が重要

議題 2-3 最近の動向 日本成長戦略「月面・低軌道」について

最近の動向として日本成長戦略「月面・低軌道」について、資料 2-3 を用いて、内閣府宇宙事務局から報告があった。

(委員から意見なく、報告のみ)

以上